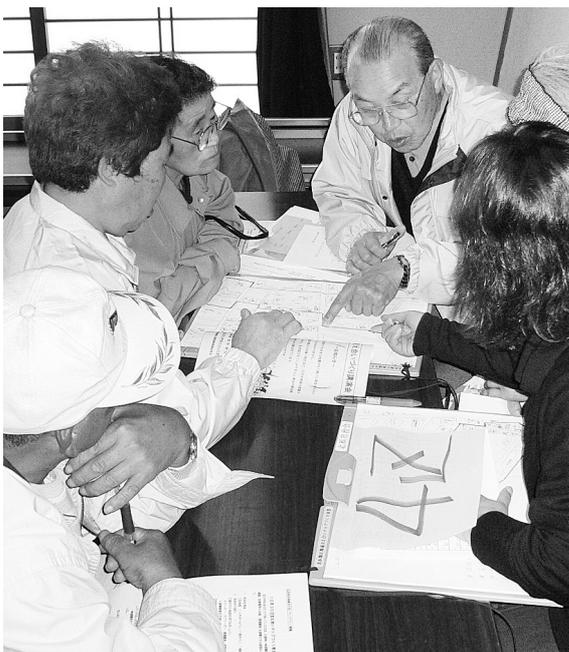


自主防災の今

地域が共に助け合う力

災害が発生し、危険が身に迫ったとき、まずは自分の身は自分で守る「自助」が必要です。しかし、自分や家族の力だけで大規模災害に対処するには限界があります。また、消防署や町内13カ所で組織されている町消防団などによる「公助」でも、大きな災害になればなるほど、道路の寸断や大規模災害の発生などにより町内すべての災害へ速やかに対処することが困難になることが想定されます。今回は、住民が共に助け合う「共助」の精神の下、地域が丸となり、防災活動に取り組む自主防災組織を紹介します。

マップづくりで団結 今後も防災に力注ぐ



「地域支え合いマップづくり」に取り組む地区の皆さん

海抜が低く過去に何度も津波被害を受けてきた北浜地区。高齢化率も高い地区であることから、北浜地区自治会（武藤清吉会長）では、平成20年5月から高齢者など要援護者の避難支援体制づくりに着手しました。

同年10月には県の「地域支え合いマップづくりモデル事業」を導入し、各行政区ごとのリーダーや避難支援者を選任するなどの支援体制づくりに取り組んでいます。

北浜地区自治会（防災部）

団体概要

昭和61年に北浜地区自治会が結成。従来は、町の総合防災訓練に合わせて避難訓練を実施していたが、平成20年度から本格的に防災活動を開始した。北浜地区276世帯で構成されている。

住民の防災意識高め 独自の活動継続する



平成19年度に実施した講演会の様子

山田中地区自主防災会（東海林博^{ひろし}本部長は、もともと自治会組織のなかつた八幡町と中央町の一部で組織的に防災に取り組むため設立されました。活動は、住民の防災に対する意識調査からスタート。この結果、防災意識を高めることが必要と考え、防災啓発のチラシ配布や講演会などを行いました。また、同地区の世帯構成を把握するため役員

が区内を歩いて確認避難の手助けが必要な高齢者などをチェックしながら各行政区ごとの名簿と地図を独自に作成しました。そのほかにも▽町の住民協働推進事業による防災資機材の配備▽住所や健康状態など個人情報^{個人}を記す「災害時個人情報カード」の住民への配布▽古井戸の再利用▽消火器や車いすの操作訓練——などの活動を続けています。

山田中地区自主防災会

団体概要

地域の連帯感を深めながら、災害発生時の被害防止や軽減を図ることを目的に平成19年2月20日に設立。八幡1区～7区、中央1区～4区の335世帯で構成されている。

インタビュー

高齢者など災害時要援護者に対する支援体制づくりに取り組むなど、先進的な団体のリーダーに話を伺いました。



山田中地区自主防災会 本部長
東海林博^{ひろし}さん（中央町・64歳）

山田中地区自主防災会は、災害に対して自分たちの地域は自分たちで守ろうという住民の声からスタートしました。役員同士で防災について勉強を重ねながら、まずは、住民の皆さんの防災意識を高めることから始めました。いろいろな防災情報を盛り込んだチラシを3カ月に1回のペースで配布したり、

防災の講習会などを開催しました。これらの活動の積み重ねがあつて本年2月の大津波警報発令の際には、地区の方々が参集し、安否確認や避難支援などに協力していただきました。

これからも活動を続け、地域が一致団結して防災に努めていければと思っています。

地域支え合いマップづくりを通じて、北浜地区が防災という一つの目標に向かって取り組んだおかげで、住民の防災意識が大きく変わったと実感しています。それまでの避難訓練ではただ避難するだけで終わっていたのが、災害が長期化すれば食料も必要だし、寒い季節であれば防寒対策も必要だということを理解できるようになったようです。

この事業をこのまま終わらせるのではなく、今以上によりよい防災対策ができるように防災部のメンバーや地域の方々と話し合いを重ね、新しいことも取り入れるなど試行錯誤しながら災害に強い地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。



北浜地区自治会 防災部長
鳩山好夫^{よしお}さん（北浜町・62歳）

防災資機材を活用し 住民意識の向上を図る



平成21年度の町総合防災訓練に合わせて土のう積み防水防訓練を行いました(上写真)／八千代地区自治会の吉川会長



八千代地区自治会（吉川義男会長）では、平成20年度に町から防災資機材が配布されたことを機に自主防災部を結成しました。

水害や地震による被害が想定される同地区ですが、今までは町の総合防災訓練に参加する人はほとんどいませんでした。そこで、住民の防災意識を高めるために防災資機材を使った訓練の実施を決定。21年度には、町の総合防災訓練にあわせて

避難訓練と水害に備えた土のう袋の作成を行いました。そのほかにも消火器訓練やAEDを使用した救急救命訓練、非常食炊き出し訓練を行うなど積極的に防災活動に取り組んでいます。

会長の吉川さんは「最近ではゲリラ豪雨など突発的な雨が多く、河川から水が溢れ出す恐れがあります。今後は、水害対策の訓練を充実させながら、継続していききたいです」と話しています。

八千代地区自治会(自主防災部)

団体概要

昭和60年、同地区の町内会「和合の会」が基となり設立。明るく住みよい地域づくりを実践しており、平成19年度には県の「元気なコミュニティ100選」に選定。八千代地区の83世帯で構成されている。

地域力で被害を最小に

自主防災組織を結成しませんか

自主防災組織とは

「共助」とは、互いに助け合うという意味があります。阪神・淡路大震災で崩れた建物の下から救出された人々の多くは、地域住民の活躍により助け出されたという報告があり、地域住民が協力し合って助け合う「共助」の力で災害時の被害を最小に食い止めています。

この共助の力を最大限に発揮するため結成されるのが自主防災組織です。同組織の活動は、地域内での情報収集や初期消火活動、負傷者の救出や避難誘導、食料や水の分配など多岐にわたっています。また、平常時にも防災知識を広める広報活動や地域内の安全点検などを行うほか、独自の防災訓練に取り組んでいる団体もあります。

町内の活動状況

町内で自主防災活動に取り組む団体は現在11団体。また、田の浜や大浦など5地区には婦人

◆町内の自主防災活動団体

団体の名称	対象地区
北浜地区自治会	北浜地区
飯岡地区住民自治会	飯岡、長崎地区
船越地区自治連合会自主防災部	船越地区全域
前須賀自治会	船越前須賀地区
大沢袴田川向地区自治会	大沢川向、袴田地区
愛宕地区自主防災会	中央町の一部、後楽町
大浦地区自主防災活動推進協議会	大浦地区
織笠森地区自主防災会	織笠森地区
山田中地区自主防災会	中央町の一部、八幡町
山田南自治会	境田、川向地区
八千代地区自治会	八千代地区

消防協力隊や婦人防火クラブがあります。町ではこれらの団体に防災資機材を交付し、地域の自主防災活動を推進しています。防災活動には地域全体で取り組んだ方が効果的です。自主防災組織が無い地区の皆さん、ぜひ設置を検討してみてください。

◆問い合わせ 町総務課危機管理室（☎82-3111内線460）へどうぞ。